

碧窓晝寂幽意長 竹陰滿地琴尊涼

輕雷送雨遠不到 雪白水花生晚香

【読み】

碧窓 昼寂（しずか）にして 幽意 長し 竹陰 地に満ちて 琴尊（きんそん） 涼し 輕雷 雨を送り  
て 遠く 到らず 雪白の水花 晚香 生ず

【意味】

青い窓辺の書斎は、昼間でありながら静まり返っており、ひっそりとした趣が長く心に染み入ってくる。竹の葉陰が庭いっぱいになり、琴と酒器の涼しさが心地よい。遠くで雷が鳴り、雨雲を連れてきているが、ここまではまだ届かない。雪のように白い水辺の花が、夕暮れの香りをほのかに漂わせている。

\*碧窓：青い窓。涼しげな書斎の窓辺。

\*幽意：もの静かで深い情趣

\*琴尊：琴と酒（尊）

\*晚香：夕方の芳香

【出典】 水軒夏日（馬臻・元） 水軒（すいけん）の夏日 『水辺のあずまやで過ごす夏の日』

この詩は、夏の午後の静かなひとときを詠んだもので、自然の風景と室内の風雅な暮らしが静謐に描かれています。